



各 位

平成28年10月31日

会社名 住友精密工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 三木 伸一  
 (コード番号 6355 東証一部)  
 問合せ先 管理部長 松永 徹也  
 (TEL 06-6489-5816)

第2四半期累計期間業績予想との差異及び営業外費用（為替差損）の計上  
 並びに通期業績予想の修正、剰余金の配当（中間配当）  
 及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成28年4月28日に公表の平成29年3月期第2四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）の連結業績予想及び個別業績予想と、本日公表いたしました平成29年3月期第2四半期決算に差異が生じますとともに、同連結累計期間において、営業外費用（為替差損）を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

併せて、最近の業績動向を踏まえ、平成29年3月期通期業績予想、剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正について、お知らせいたします。

## 記

## 1. 平成29年3月期第2四半期累計期間業績予想との差異

## (1) 連結業績予想との差異（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	25,500	△ 450	△ 550	△ 550	△ 10.39
第2四半期累計期間実績 (B)	22,671	△ 40	△ 1,274	△ 1,127	△ 21.31
増減額(B)－(A)	△ 2,829	410	△ 724	△ 577	
増減率	△ 11.1%	－	－	－	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	21,533	△ 334	△ 742	△ 735	△ 13.89

(注) 上記の前年同期値につきましては、平成29年3月期第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度に実施した企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の数値となっております。

## (2) 個別業績予想との差異（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	20,500	△ 50	△ 50	△ 50	△ 0.94
第2四半期累計期間実績 (B)	18,494	238	△ 203	△ 164	△ 3.10
増減額(B)－(A)	△ 2,006	288	△ 153	△ 114	
増減率	△ 9.8%	－	－	－	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	18,115	263	75	56	1.06

## (3) 差異の理由

第2四半期累計期間の連結業績につきましては、為替の円高進行による影響に加え、航空宇宙事業に関し一部出荷時期の見直しが発生した他、マイクロマシニング用プラズマプロセス装置他における受注の下半期へのずれ込み等もあり、売上高は前回予想を下回りました。

一方で、営業利益につきましては、上記販売減少の影響を受けつつも、販売構成改善及び経費他の下期へのずれ込み等により、前回予想から改善いたしました。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、次項に記載しております為替差損の発生等により、前回予想を下回りました。

また、個別業績に関しましても、連結と同様の理由により差異が生じております。

## 2. 営業外費用（為替差損）の計上

平成29年3月期第2四半期累計期間において、為替の円高が進行したことに伴い、為替差損1,150百万円（個別439百万円）を営業外費用に計上いたしました。なお、本費用の内、689百万円（個別366百万円）については第1四半期の決算に計上済みであります。第2四半期会計期間においても、更なる円高進行に伴い引き続き為替差損が発生しております。

なお、上記為替差損1,150百万円（個別439百万円）は、当社の外貨建て資産および在外子会社の円建て債務を当第2四半期末時点の為替相場にて算出した期末換算差額を含むものであります。そのため、今後の為替水準の状況により当該為替差損益の額は変動いたします。

## 3. 平成29年3月期通期業績予想の修正

### (1) 連結業績予想の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	55,000	1,450	1,250	700	13.22
今回修正 (B)	49,500	50	△ 1,400	△ 1,200	△ 22.67
増減額(B)－(A)	△ 5,500	△ 1,400	△ 2,650	△ 1,900	
増減率	△ 10.0%	△ 96.6%	－	－	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	51,210	1,306	321	△ 624	△ 11.81

(注) 上記の前期実績値につきましては、平成29年3月期第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度に実施した企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、確定後の数値となっております。

### (2) 個別業績予想の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	44,000	750	650	450	8.50
今回修正 (B)	40,000	△ 250	△ 900	△ 600	△ 11.34
増減額(B)－(A)	△ 4,000	△ 1,000	△ 1,550	△ 1,050	
増減率	△ 9.1%	－	－	－	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	42,189	1,005	552	△ 953	△ 18.01

### (3) 通期業績予想修正の理由

上半期は、航空宇宙事業を主体とする販売の落ち込みを営業利益段階においては合理化等で挽回したものの、経常利益および当期純利益は為替変動の影響により損失を拡大させることとなりました。

通期につきましては、それらに加えて、原油安の長期化等に伴うアジア地域を主体とした液化天然ガス（LNG）輸入量の伸びの鈍化、並びに鉄鋼・石油化学分野における需給緩和の継続等により、当社熱エネルギー・環境事業の主力品であるLNG気化器や低温工業用熱交換器の需要回復が当初想定に比べ遅れていること、また、下半期の想定為替レートも当初想定に対し円高水準にて見直したこと等に伴い、売上高・各利益ともに前回予想を大きく下回る見込みであります。

なお、下半期及び期末の為替レートにつきましては、1米ドル100円、1カナダドル80円（当初想定 1米ドル115円、1カナダドル90円）を想定しております。

また、個別業績予想につきましても、連結と同様の理由により、売上高・各利益ともに前回予想を下回る見込みであります。

#### 4. 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正

##### (1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	直近の配当予想	前期実績
基準日	平成28年9月30日	同左	平成27年9月30日
1株当たり配当金 (平成28年4月28日発表)	2円50銭	3円50銭	3円50銭
配当金総額	132百万円	—	185百万円
効力発生日	平成28年12月1日	—	平成27年12月1日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

##### (2) 期末配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金（円）		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (平成28年4月28日発表)	3円50銭	3円50銭	7円00銭
今回修正予想	<del>3円50銭</del>	2円50銭	5円00銭
当期実績	2円50銭	<del>3円50銭</del>	<del>7円00銭</del>
前期実績 (平成28年3月期)	3円50銭	3円50銭	7円00銭

##### (3) 修正等の理由

当社は、従来より安定的な配当の継続を基本方針としつつ業績動向及び事業環境も考慮することとしておりますが、今期業績動向等を総合的に勘案し、誠に遺憾ではございますが、上記のとおり、平成29年3月期の第2四半期末(中間)配当を2円50銭とすることを決議致しました。また、期末配当の予想につきましては、2円50銭に修正いたします。

#### 5. 今後の当社対応について

今回の大幅な通期業績予想の下方修正を受け、1米ドル100円の為替水準においても安定的に収益を確保できる体制を構築すべく、早急に構造改革特別チームを編成し、経費削減等の緊急対策と併せて、

- ・事業の選択と集中の加速
- ・固定費、一般管理費の削減
- ・サプライチェーンの見直し、購買力強化による外部調達費の削減

により、年間20億円程度の合理化効果を出すことを目標に検討して参ります。

なお、業績予想の悪化に加え、配当予想の引き下げに至った状況を真摯に受け止め、現在、既に実施しております役員報酬の自主返上について、更なる上積みを実施する予定です。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。従いまして、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合がありますので、予めご承知願います。